

### <追悼文>中本正智さんの思いで

野原, 三義

---

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

18-19

(開始ページ / Start Page)

40

(終了ページ / End Page)

41

(発行年 / Year)

1995-02-24

## 中本正智さんの思いで

野原三義

1993年12月16日上福岡の双愛病院にお見舞いに行った。野原です。お分かりですかと挨拶した。「あー」という返事が返ってきた。あとはガラス窓の向こうの方を見やりながら一方的にいろいろなことを話した。奥様には何か話をしているようにも思えたから、理解しているのだと思った。病院で飲むわけにいかないから治ってからやりましょう。古酒を持って来ますからといって辞した。それが最後になってしまった。

中本さんに初めて会ったのは、1958年4月。琉球大学の方言クラブに入ったときで、二期先輩だった。彼は研究生にもなったから、そのころ三年間は一緒だったことになる。伊江島や慶良間の調査に連れていってもらったことがあった。大学の1年だったか、2年だったかに抜歯したことがある。ずいぶん長いこと血が止まらず、一晩のうちに洗面器いっぱい血が溜まっていた。寮にいと心細かったのだろう。中本さんの下宿に洗面器だけを持って転がり込んだ。彼も下宿の身だのに、泊めてくれて、食事までお世話になった。大家さんと話をつけてくれたということである。考えてみたら、彼はクリスチャンだった。当時は、まだ学問以前の話だから、学問的にあれこれ言われた記憶はない。ともかく、人間的な触れ合い、将来の揺籃期というところだったろうか。年月のせいで忘れたのかもしれない。

68年東京都立大学大学院に入ったが、紛争まっさかりの頃で、大学は封鎖されて入れない時期とも重なった。正月に東長崎の家に招かれて、ヤマトウ風のお節料理をいただいた。琉大方言クラブの頃は、すぐ側にいたのに、やや遠さを感じていたが、周囲の環境上そうなっていただけのことだったのだろう。

70年4月に沖縄に帰った。75年11月の秋の学会は、方言研究会が福岡教育大学、国語学会は九州大学でおこなわれた。初日の方言研究会の懇親会の帰りだったとおもう。どこか行こうということになって、タクシー運転手にその旨をつげたら連れていってくれた。ガラリと入ったら、ラッシュイと同時にドドンと大太鼓が鳴って驚いた。琉球に生を受けて、琉球方言を後世に残すのは、やるべきことではないのかという重たい言葉が鮮明に時を越えて鳴りとよんでいる。法政大学沖縄文化研究所の『琉球の方言』が出ることになるのである。最初は調査地は湯湾なら湯湾だぞというくらいだった。久米島の鳥島は、珍しく皆そろって行った。方法はどうだというのは、筆者には記憶がない。ともかく大いに感じるころがあった。10年は毎号調査報告を書いた。鹿児島でアサヒガニ（セミエビ?）を持ってうろうろしたり、熊本の学会では馬刺を探していたり、名古屋では酒を持ってスナックに入り

こんだり、なにやら可笑しな面白いことをやったものだ。奇妙なことをする普通の人でもあったのだ。名古屋では、かなりの時間を過ごしたにもかかわらず、翌日は大阪で研究会があるとして早々に出発していた。書き置きで知ったことではあった。物凄いバイタリティーのある人だったとは皆がいうところである。

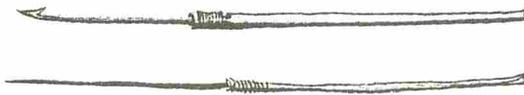
80年11月29日中野のサンプラザで沖縄協会賞（金城朝永賞）を受賞した。式の終了後、新宿でコーヒーなど飲んで、さらに池袋で飲んで上福岡で飲んで、中本家に泊まった。後輩が賞を貰ったことをとても喜んだのであろう。

91年秋、重点領域研究「日本語音声」の件で電話があった。どこかのグループに入っているかと言うのである。否という、早速、八重山をやれとアクセント・イントネーションの調査用紙、調査見本の神戸イントネーションのカセットテープが送られてきた。92年の2月の末に祖納に出かけた。全国の学者をまきこんで調べているのに、なにを、ぼんやりしているのかという叱咤激励だったのかもしれない。同じ頃、浦添市小湾の調査がはじまった。加われということで、分担して始めた。中本さんには総論のところを書いてもらう予定であった。かなり調査も進んでいたようすであったが、とうとう完成を見ずに逝ってしまった。

思考の中に立ち入って、ああだこうだと直接いうことは無かったようだが、研究プロジェクトには、気配りをしていて、よく引き入れてくださった。そういえば、最近、若い後輩が沖縄から来なくなると、寂しくいっておられたことがある。

いろいろと導いてくれた先輩だったのに、思い断腸である。

(沖縄国際大学教授)



鋶（イグン） カット・中本正智